

第百二十六話 忘れられた軍神（1）

（副題：我が将兵の敢闘、此処にあり！（5））

幼い頃に、寝物語に軍神の話を聞いたものである。長じてから、戦史の中で知ることはあっても、それ以上でもそれ以下でもなかった。大東亜戦争間に軍神と称えられた人には誰が居るのかと思って、調べてみた。

1 軍神とは

軍神とは、戦勝や武運長久を司る神であるが、近代日本では、壮烈な戦死を遂げて神格化された軍人を云う。戦死した将兵は、靖國の神として祀られるが、その神のなかでも別格とされる。（鹿島神宮・香取神宮は軍神を祀り武の神様である。）

山室建徳氏はその著において、軍神の三類型として以下を示している。

I	廣瀬武夫、橋周大、加藤建夫	部下を思いやりながら戦場で斃れた中年の指揮官
II	乃木希典、東郷平八郎	大決戦を勝利に導いて英雄となった将軍・提督
III	爆弾三勇士、特別攻撃隊	死を免れない作業を集団で遂行した若手将兵

*近代日本最初の軍神は廣瀬武夫、木口小平（ラッパ手）は軍神とはされなかった。

爆弾（肉弾）三勇士は軍神とはされなかったが、同等の扱い

2 大東亜戦争間における軍神

（1）支那事変（1937/7/7～）

ア 杉本五郎中佐（1937/9/14）

山西省広靈県において中隊長として従軍し、敵陣に突撃して重症を負い、直立不動の姿勢で宮城の方角へ敬礼をしたまま絶命した。彼の遺書「大義」は、終戦に到るまで版を重ね 29 版、130 万部を超える大ベストセラーとなった。

イ 南郷茂章海軍少佐（1938/7/18）

S13/7/18 の南昌飛行場攻撃の際に、空中戦を繰り広げた敵機と衝突して、搭乗機が空中分解して戦死。海軍の荒鷲三羽鳥の一人、マスメディアは軍神とはしていない。秦賢助著「軍神伝」（S17 刊）で取り上げている。

ウ 西住小次郎大尉（1938/5/17）

戦車小隊長であった西住小次郎大尉は、第二次上海事変から徐州会戦中の昭和 13 年 5 月 17 日に流れ弾に当たって戦死するまでの間、30 回以上の戦闘に参加した。菊池寛による小説「西住戦車長伝」が東京日日新聞・大阪毎日新聞に連載され、1940 年（昭和 15 年）松竹により映画化された。

（2）日米英蘭開戦後（1941/12/8～）

ア 九軍神（二階級特進）（1941/12/8）

真珠湾攻撃において、甲標的に乗組み、未帰還となった海軍中佐岩佐直治ら以下の 9 名が「特別攻撃隊の偉勳」として軍神とされた。（1942 年 3 月 6 日海軍省発表）・岩佐直治 中佐 ・横山正治 少佐 ・古野繁実 少佐 ・広尾彰 大尉 ・佐々木直吉 特務少尉 ・横山薫範 特務少尉 ・上田定 兵曹長 ・片山義雄 兵曹長 ・稲垣清 兵曹長



潜航艇は 1 隻 2 人乗りで、生存者の酒巻和男少尉は捕虜となったのだが、大本営発表ではこの事実は伏せられた。三机湾に慰霊碑、文学作品：坂口安吾の『真珠』、菊池寛、吉川英治等の錚々たる文筆家が激賞。また、詩人佐藤春夫、斎藤茂吉、高浜虚子の献句あり。マスメディアで大々的に報道された。偉大なる軍神の母が喧伝された。

（以下 第百二十七話 に続く）